

## 地域包括ケアにおける診療所の役割

## ③ 都市部で在宅を支える

地域医療振興協会シティ・タワー診療所 島崎 亮司

## KEY WORDS

- 訪問診療
- 小児在宅医療
- がん末期
- 社会的困難

## はじめに

現在社会情勢が変化しつつあり、地域包括ケアシステムの構築もその時代に応じた対応が求められる。今回は都市部でのこれらの課題とそれに対して診療所としてできることを訪問診療を中心に解説する。

## I. 都市部における課題

## 1. 相談窓口が不明

たとえば介護相談をする場合、へき地であれば相談窓口はある程度一本化されており、かつ〇〇保健センター（もしくは福祉センターなど）、という形になっていることが多い。保健センターにいけば居宅支援事業所も訪問看護ステーションもデイサービスもすべて揃っていることが多く、地域の方も相談すべき場所が明確になっていることが多い。

一方で都市部の場合には、介護相談

しようとした場合、〇〇居宅介護事業所、〇〇地域包括支援センター、〇〇保健所、などさまざまな相談窓口がある。当院のある岐阜市（人口約41万人）であれば地域包括支援センターは19カ所、居宅介護事業所は154事業所、訪問看護ステーションも64事業所ある。これだけ事業所があると、どの事業所に相談したらいいか、どの訪問看護ステーションが自分に合うのか、選択に難渋すると予想される。

## 2. 専門医、総合病院がたくさんあることによる主治医機能の不明化

当院のある岐阜市では、大学病院をはじめ、500床を超える総合病院が4病院存在する。その他専門性をもった開業医も多数ある。このため患者は症状に応じてさまざまな専門医に受診が容易にできる環境にある。地域のかかりつけ医として全身を診ようと医師側が思っても、患者・家族側が「大学病院の〇〇先生が主治医だから」といっ

Supporting home medical care in urban areas.

Ryoji Shimazaki (所長)